

# 日本史

# 日 本 史

第1問 古代～近現代の文学に関するA～Cの文章を読み、次の問い（問1～8）に答えよ。

A ヤマト政権は朝鮮半島からやってきた渡来人たちを受け入れた。この渡来人の中には文筆を得意とする人々もあり、熊本県の  古墳から出土した鉄刀の銘文からは、5世紀には漢字の使用や、漢字の音を用いて当時の人々の名を記していたことがわかる。ヤマト政権は彼らを専門的な職能集団である部に編成し、伴造に管理させた。さらに時代が進むと、人々が詠んだ和歌が漢字の音を用いて記録された。<sup>a</sup> 奈良時代には現存する日本最古の歌集である『万葉集』が編まれ、多くの民衆の和歌も収録された。

和歌は形式が整って発展し、平安時代には醍醐天皇の命令で最初の勅撰和歌集である『』が編まれた。勅撰和歌集は、その後も多く編纂された。

問1 空欄  ・  に入る語句の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① アー江田船山      イー古今和歌集
- ② アー江田船山      イー凌雲集
- ③ アー箸墓            イー古今和歌集
- ④ アー箸墓            イー凌雲集

問2 下線部<sup>a</sup>に関連して、奈良時代の文化について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 六国史のはじめである、『古事記』が編纂された。
- ② 中央に貴族の子弟のための国学が設けられた。
- ③ 来日した鑑真により、平城京内に法隆寺が開かれた。
- ④ 諸国の伝承や産物などを記した『風土記』がつくられた。

B 中世においても和歌は貴族文化の代表的なものとしての地位を占めた。⑥武士の間にも和歌を詠み、和歌集を残すものもあり、文化の面でも武士の活躍がみられた。その一方で民間の娯楽として、和歌を上句と下句を交互に詠み継いでいく連歌が始まり、南北朝時代には  が形式を整え、その地位を確立した。連歌はその後も発展し、芸術性を高める一方で、滑稽さや機知に富んだ俳諧連歌も発達した。

江戸時代に入ると、談林俳諧を学び、仮名草子を発展させた⑦井原西鶴があらわれ、男女の恋愛や武士の生活、あるいは町人たちの経済生活などを題材に浮世草子とよばれる小説を相次いで発表して好評を博した。⑧小説は江戸後期にかけてさかんに書かれ、その題材も、風刺を含むものや怪奇的なものなど幅広い範囲にわたって発達していった。このような文芸が娯楽として発達した背景には、 などによって、一般庶民でも文字を読み書きできる能力が身についていたことが一因として指摘される。

問3 空欄  ・  に入る語句の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① ウー一条兼良 エー昌平坂学問所
- ② ウー一条兼良 エー寺子屋
- ③ ウー二条良基 エー昌平坂学問所
- ④ ウー二条良基 エー寺子屋

問4 下線部⑥に関連して、鎌倉時代の武士と文化の関わりについて述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 源頼朝が、『金槐和歌集』に万葉調の歌を残した。
- ② 金沢（北条）実時が、凶書を集め金沢文庫を設けた。
- ③ もと武士であった兼好法師が『山家集』を残した。
- ④ 幕府の命令により、『新古今和歌集』が編纂された。

問5 下線部㉓に関連して、井原西鶴が活躍した頃の文化の様子について述べた文として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 5

- ① 松尾芭蕉が東北・北陸を旅行し、紀行文『奥の細道』を残した。
- ② 近松門左衛門が『曾根崎心中』などの人形浄瑠璃の脚本を著し、人気を博した。
- ③ 狩野永徳が「紅白梅図屏風」を描き、琳派に受け継がれた。
- ④ 菱川師宣が肉筆の浮世絵である「見返り美人図」を描いた。

問6 下線部㉔に関連して、江戸時代以降の言論活動について述べた次の文Ⅰ～Ⅲについて、古いものから年代順に正しく配列したものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 6

- Ⅰ 江戸町人の恋愛を描いた『春色梅児誉美』の作者である為永春水が、水野忠邦の主導する改革で幕府によって処罰された。
- Ⅱ 風刺や滑稽に富んだ黄表紙の作者である恋川春町が、松平定信の主導する改革で幕府によって処罰された。
- Ⅲ 福沢諭吉が『西洋事情』を著し、欧米諸国の社会の様子やさまざまな文物などを広く民衆に紹介した。

- ① Ⅰ－Ⅱ－Ⅲ      ② Ⅰ－Ⅲ－Ⅱ      ③ Ⅱ－Ⅰ－Ⅲ
- ④ Ⅱ－Ⅲ－Ⅰ      ⑤ Ⅲ－Ⅰ－Ⅱ      ⑥ Ⅲ－Ⅱ－Ⅰ

C 明治維新を迎え、近代的な文物が流入してきても、人々の間の娯楽には大きな変化が見られず、江戸時代以来の文芸が人気であった。明治時代中期より、㉔西洋の文学論が紹介され始め、それに基づいて日本でも近代的文学作品が著された。個人主義に根ざした恋愛問題、青年期の苦悩や青春の素晴らしさについて、詩や小説、あるいは俳句など様々なジャンルで創作が行われた。

文学では、貧困や差別などの社会の様々な問題や、労働者の生活なども描かれ、政府より弾圧を受ける場合もあった。

文学の潮流は、大正デモクラシーや戦時下など、それぞれの時代の世相を反映しており、各時代の人々の考え方や生き方をうかがうことができる。㉕第二次世界大戦後も多くの文学作品が発表された。その中には、ノーベル賞を受賞して世界的な評価を得たものもある。

問7 下線部㉔に関連して、明治時代から大正時代にかけての近代文学について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 北村透谷は詩集『若菜集』で清新な男女の恋愛などを描いた。
- ② 夏目漱石は『こころ』で、エゴイズムに悩む人間の姿を描いた。
- ③ 正岡子規は『蟹工船』で労働者たちの過酷な現状を描いた。
- ④ 西田幾多郎らは人道主義・理想主義的な作風で、白樺派とよばれた。

問8 下線部㉕に関連して、第二次世界大戦後の文化について述べた次の文Ⅰ・Ⅱについて、その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

- Ⅰ 川端康成は、日本人で初めてノーベル賞を受賞した。
- Ⅱ 太宰治は、『斜陽』などの作品が評価されてノーベル文学賞を受賞した。

- ① Ⅰ－正 Ⅱ－正      ② Ⅰ－正 Ⅱ－誤
- ③ Ⅰ－誤 Ⅱ－正      ④ Ⅰ－誤 Ⅱ－誤

**第2問** 古代の政争・戦乱に関するA～Cの文章を読み、次の問い（問1～7）に答えよ。

（史料は、一部省略したり、書き改めたりしたところもある。）

**A** 日本列島に関する文字史料が残された時から、戦乱の歴史は、常に記述され続けたと言っても過言ではない。①弥生時代の倭の様子について記した中国の歴史書には、すでに日本列島に小国が分立し、その国々が争っていた様子がうかがえる。また、「倭の五王」の一人「武」は、②中国皇帝への上表文中で戦いによって支配地域を拡大した様子を述べている。こうした戦乱の中で、ヤマト政権は次第に大きな権力を形成し、やがて中央集権的な政治制度をつくることを目指し始めた。しかし、③その過程は、決して平坦なものではなかった。そして、対外的な危機や国内での戦乱を経て完成したのが、律令制度という政治の枠組みであった。

**問1** 下線部①に関連して、弥生時代の倭の様子について述べた文として正しいものを、次の

①～④のうちから一つ選べ。

- ① 水稲農耕が北海道から沖縄まで広く日本列島各地で行われた。
- ② 吉野ヶ里遺跡など、大規模な環濠集落が営まれた。
- ③ 金属器の使用が始まり、鉄器は主に祭祀用に用いられた。
- ④ 主に灰色で硬質の須恵器とよばれる土器が用いられた。

**問2** 下線部②に関連して、次の史料は中国の歴史書に記された倭王「武」の交渉の様子と上表文の一部である。この史料について述べた次の文Ⅰ・Ⅱについて、その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

順帝の昇明二年、使を遣して上表をして曰く、「封国は偏遠にして、藩を外に作す。昔より祖禰躬ら甲冑を撰き、山川を跋涉して寧処に違あらず。東は毛人を征すること五十五国、西は衆夷を服すること六十六国、渡りて海北を平ぐること九十五国。……」と。詔して武を使持節都督倭・新羅・任那・加羅・秦韓・慕韓六国諸軍事安東大將軍倭王に除す。

Ⅰ この史料は「魏志」倭人伝に記載されたものである。

Ⅱ 「武」は交渉の結果、中国皇帝からの冊封を受けた。

- ① Ⅰ－正 Ⅱ－正      ② Ⅰ－正 Ⅱ－誤
- ③ Ⅰ－誤 Ⅱ－正      ④ Ⅰ－誤 Ⅱ－誤

問3 下線部㉔に関連して、7世紀の倭国内の政争や対外危機について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 11

- ① 倭は滅亡した旧百濟勢力の要請を受けて朝鮮半島に出兵した。
- ② 白村江の戦いののち、国防のために都を九州北部に移した。
- ③ 乙巳の変で、中大兄皇子は中臣鎌足らを殺害した。
- ④ 天武天皇の死後、後継をめぐって壬申の乱が起こった。

**B** 奈良時代には律令に基づく政治が行われ、政治の主導権をめぐり、藤原氏と他の一族との間で多くの政争が繰り広げられ、時には軍事力が用いられることもあった。[ア]は孝謙太上天皇が重用する道鏡の排除を求めて挙兵したが、この戦乱は、律令により徴集された軍団の兵士らによって鎮圧された。

律令制度は多くの兵士を動員できる仕組みをもっており、対外的な緊張感が緩和される中で次第に変更された。桓武天皇の時代には、東北や九州などを除いて軍団と兵士を廃止して郡司の子弟らを募る[イ]を採用した。④平安時代の前半においても国政の主導権をめぐる政争はあったものの、京の付近で軍事力を用いることはなくなっていった。

**問4** 空欄[ア]・[イ]に入る語句の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 [12]

- ① アー藤原仲麻呂（恵美押勝） イー勘解由使
- ② アー藤原仲麻呂（恵美押勝） イー健児
- ③ アー吉備真備 イー勘解由使
- ④ アー吉備真備 イー健児

**問5** 下線部④に関連して、平安時代の政争について述べた文として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 [13]

- ① 承和の変により、橘逸勢らが配流された。
- ② 応天門の変により、伴善男らが配流された。
- ③ 菅原道真の策謀により、藤原時平が左遷された。
- ④ 安和の変により、源高明が左遷された。



C 平安時代中期には、中央政界で政争に勝利した藤原氏北家が大きな権力を握り、国政を主導した。それとともに政争がなくなり、宮廷社会は安定し、次第に政治が形骸化して、年中行事などの儀礼が重視されるようになった。㉔こうした中、中央の宮廷社会は地方政治への関心を失い、地方政治は国司に一任されるようになった。

地方における国司の権限は大きく、任期を終えたのちも土着して勢力を築くものがあらわれた。この勢力は中央の貴族と結び、その指導のもとで宮廷社会に対し軍事力をもって奉仕した。これらの勢力を武士とよぶ。武士の軍事力は、㉕地方の戦乱を平定する際に用いられた。平安時代の後期には京での政争に用いられ、その活躍により、武士は宮廷社会において大きな影響力をもつに至った。

問6 下線部㉔に関連して、平安時代中頃の宮廷社会または地方政治について述べた文として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 14

- ① 藤原道長が、宇治に平等院鳳凰堂を建立した。
- ② 国政の重要事項は、公卿による陣定で審議された。
- ③ 任国に赴任する国司の最上席のものは、受領とよばれた。
- ④ 地方では現地の有力者が、国衙の在庁官人となった。

問7 下線部㉕に関連して、平安時代の地方の戦乱について述べた次の文Ⅰ～Ⅲについて、古いものから年代順に正しく配列したものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 15

- Ⅰ 平将門が国司に対して反乱を起こし、「新皇」と称したが、平貞盛らによって鎮圧された。
- Ⅱ 清原氏の内紛に際し、藤原（清原）清衡を助けて源義家が介入し鎮圧する後三年合戦が起こった。
- Ⅲ 帰順した蝦夷の子孫である安倍氏の反乱を、源頼義らが鎮圧した前九年合戦が起こった。

- ① Ⅰ－Ⅱ－Ⅲ      ② Ⅰ－Ⅲ－Ⅱ      ③ Ⅱ－Ⅰ－Ⅲ
- ④ Ⅱ－Ⅲ－Ⅰ      ⑤ Ⅲ－Ⅰ－Ⅱ      ⑥ Ⅲ－Ⅱ－Ⅰ

**第3問** 中世の都市に関するA・Bの文章を読み、次の問い(問1～7)に答えよ。

A 以仁王の令旨をうけて挙兵した源頼朝は鎌倉に入り、東国の武士と主従関係を結んで御家人とし、支配を固めていった。鎌倉は源氏ゆかりの地であるとともに、三方を小さな丘陵に囲まれ、南は海にのぞむ地形になっており、<sup>a</sup>治承・寿永の乱の中で防衛に適した土地を本拠地として選択したとも考えられる。鎌倉幕府の中心機関は一般政務を行う政所(公文所)や御家人の統制を行う「ア」などであった。鎌倉の中心部には源氏の守護神である「イ」八幡宮があった。ここで3代将軍が殺害され、以降は源氏の将軍が立てられることはなかった。

将軍は幕府の権威のよりどころとして不可欠の存在であったが、<sup>b</sup>幕府の主導権を得た北条氏に対抗する勢力と結ぶこともあり、両者の間で戦乱に発展することもあった。幕府は皇位継承にも強い影響力を持っていた。後嵯峨天皇の後、<sup>c</sup>持明院統、大覚寺統が対立したが、幕府のあっせんにより両統は交互に即位した。

その後14世紀前半、新田義貞が鎌倉を急襲し、幕府は滅亡した。

問1 空欄「ア」・「イ」に入る語句の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 16

- ① アー問注所 イー鶴岡
- ② アー問注所 イー石清水
- ③ アー侍所 イー鶴岡
- ④ アー侍所 イー石清水

問2 下線部<sup>a</sup>に関連して、治承・寿永の乱とその間の出来事について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 17

- ① すべての戦いを、源頼朝が現地で直接指揮した。
- ② 壇の浦の戦いで、高倉天皇が入水した。
- ③ 平氏と戦うため、源頼朝は征夷大將軍に任じられた。
- ④ 後白河法皇と交渉し、源頼朝は東国の支配権を認められた。

問3 下線部⑥に関連して、北条氏による他の有力御家人の排斥について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 18

- ① 北条時頼は、宝治合戦で三浦泰村らを滅ぼした。
- ② 北条時政は、霜月騒動で安達泰盛らを滅ぼした。
- ③ 北条貞時は、和田合戦で和田義盛らを滅ぼした。
- ④ 北条泰時は、承久の乱で比企能員らを滅ぼした。

問4 下線部③に関連して、持明院統と大覚寺統について述べた次の文Ⅰ・Ⅱについて、その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 19

- Ⅰ 後白河上皇が形成した長講堂領が大覚寺統の経済的基盤であった。
- Ⅱ 持明院統は亀山天皇に始まり、のちの南朝となった。

- ① Ⅰ－正 Ⅱ－正      ② Ⅰ－正 Ⅱ－誤
- ③ Ⅰ－誤 Ⅱ－正      ④ Ⅰ－誤 Ⅱ－誤

B 南北朝の動乱を終結させて征夷大將軍・太政大臣をつとめた足利義満は、公武にまたがる絶大な権力を有し、京内の「花の御所」や北山の山荘において政治を主導した。㉔足利義満は有力守護の勢力を削減し、守護は領国の統治を守護代らに委ね、自らは在京して幕政に参加した。

京都近郊の莊園領主らは、年貢納入を条件に莊園の経営を守護に委ねる守護請の契約を行っていた。京都には全国から様々な物資が集まり、それらの物資を、守護の配下の武士や公家たちが消費する巨大な消費都市となった。

しかし京都は、㉔応仁の乱で主戦場となって荒廃した。守護は領国の支配を固めるため各地に下り、守護在京が崩れた。㉔京都の文化人たちの間には、戦国大名の保護を頼って地方に逃れるものもあった。その後京都は、町衆たちにより復興され、活気を取り戻した。

問5 下線部㉔に関連して、足利義満の政治または室町幕府の機構について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 20

- ① 足利義満は、明德の乱で山名氏清らを滅ぼした。
- ② 足利義満は、永享の乱で鎌倉公方の足利持氏を滅ぼした。
- ③ 管領は將軍を補佐し、四職とよばれた守護らがつとめた。
- ④ 所領訴訟の審議機関として、雑訴決断所が設けられた。

問6 下線部㉔に関連して、応仁の乱について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 21

- ① 乱の背景に將軍足利義持の後継者をめぐる対立があった。
- ② 東軍の総大將は山名持豊（宗全）であった。
- ③ 市街戦のため、足軽とよばれた軽装の雑兵が活躍した。
- ④ 応仁の乱は一年足らずの短期間で終結した。

問7 下線部①に関連して、応仁の乱後の知識人の地方での活動について述べた次の文Ⅰ・Ⅱとその場所 a～d の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 22



Ⅰ この地に日本の水墨山水画を大成した雪舟が招かれた。

Ⅱ この地に五山の僧であった桂庵玄樹が招かれ、儒学の講義を行った。

- ① Ⅰ－a Ⅱ－b      ② Ⅰ－a Ⅱ－d  
③ Ⅰ－c Ⅱ－b      ④ Ⅰ－c Ⅱ－d

**第4問** 近世の対外関係に関するA・Bの文章を読み、次の問い（問1～7）に答えよ。

A 関ヶ原の戦いに勝利して幕府を開いた徳川家康は、<sup>a</sup>豊臣政権の残した外交課題を処理する必要に迫られた。豊臣政権下における二度の出兵により国交が断絶した朝鮮との関係改善は、対馬の<sup>ア</sup>氏を通じて行われ、朝鮮から使節が往来することとなった。同じく国交が断絶した明とは、<sup>b</sup>琉球を仲介として国交回復がはかられたが、失敗に終わった。

明との国交回復は、中国産生糸の安定的な輸入のためにも必要であった。南蛮貿易の他に將軍の渡航許可証である<sup>イ</sup>を携えた船が海外で貿易を行い、日本国内に生糸をもたらした。

キリスト教に対しては、はじめ幕府は黙認していたが、信徒の結束の強さなどを危惧し、禁教政策をとり始めた。禁教は<sup>c</sup>家康以後の將軍の政策にも引き継がれた。幕府は島原の乱を契機として、キリスト教宣教師と関わりが深い国との関係を断ち、貿易の窓口も制限して幕府の監視のもとに置いた。

**問1** 空欄<sup>ア</sup>・<sup>イ</sup>に入る語句の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 23

- ① <sup>ア</sup>—宗    <sup>イ</sup>—勘合                      ② <sup>ア</sup>—宗    <sup>イ</sup>—朱印状  
③ <sup>ア</sup>—松前   <sup>イ</sup>—勘合                      ④ <sup>ア</sup>—松前   <sup>イ</sup>—朱印状

**問2** 下線部<sup>a</sup>に関連して、豊臣秀吉の政策について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 24

- ① 豊臣秀吉は征夷大將軍となり、全国の大名を指揮した。  
② 豊臣秀吉は石山本願寺の跡地に、大坂城を築いた。  
③ 太閤検地は、全国の土地の価値を貨幣で計算するものだった。  
④ バテレン追放令では、宣教師追放のためにすべての貿易を禁じた。

問3 下線部⑥に関連して、琉球について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 琉球王国は中山王の尚泰によって建国された。
- ② 琉球王国の貿易港は首里で、中継貿易で栄えた。
- ③ 琉球王国から将軍の代替わりごとに慶賀使が派遣された。
- ④ 琉球王国との貿易はすべて長崎を通じて行われた。

問4 下線部③に関連して、徳川家康の死後の政策として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 武家諸法度（寛永令）
- ② 田畑永代売買の禁止令
- ③ 幕府直轄領・全国への禁教令
- ④ 分地制限令

B 幕府による④長崎での中国やオランダとの貿易は、幕府の財政状況や、将軍の意向によって変化した。18世紀から19世紀にかけて、ヨーロッパでは産業革命を実現し、より大きな市場と原料の供給地をめざして、海外に進出していく国家がでてきた。

こうした動きはアジアにもおよび、長崎以外の場所に外国船が出没することが頻繁になった。

⑤日本国内でも出没する外国船への対応をめぐる、様々な意見が出された。幕府は⑥蝦夷地にあらわれたロシア船への対応や、イギリス船への対応に迫られたが、江戸時代の初期につくられた外交の枠組みを「祖法」として大きく変更することはしなかった。

問5 下線部④に関連して、江戸時代の対外貿易について述べた文として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 27

- ① 中国に対しては、海産物からつくられた俵物が輸出された。
- ② 金銀の流出を防ぐため、海舶互市新例を定め貿易額を制限した。
- ③ 貿易に従事する中国人には、唐人屋敷を設けて居住地を制限した。
- ④ 5代将軍徳川綱吉の時代に、漢訳洋書の輸入制限が緩和された。

問6 下線部⑥に関連して、学者らによる主張と幕府の対応について述べた次の文Ⅰ・Ⅱについて、その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 28

Ⅰ 林子平は『赤蝦夷風説考』でイギリス・フランスとの交易を説いた。

Ⅱ 幕府は蛮社の獄で、モリソン号事件の対応を批判した高野長英らを処罰した。

- ① Ⅰ－正 Ⅱ－正      ② Ⅰ－正 Ⅱ－誤
- ③ Ⅰ－誤 Ⅱ－正      ④ Ⅰ－誤 Ⅱ－誤



問7 下線部①に関連して、江戸時代後期には日本近海にロシア船があらわれた。レザノフが来航した時期として正しいものを、次の年表中の①～④のうちから一つ選べ。 29

- ①  
ラクスマンが来航する
- ②  
異国船打払令（無二念打払令）が出される
- ③  
天保の薪水給与令が出される
- ④

**第5問** 近現代の世論と政治に関するA～Cの文章を読み、次の問い（問1～7）に答えよ。

A 幕末の動乱を経て成立した明治政府は、で政府の基本方針を打ち出し、薩長出身の官僚を中心に中央集権的な国家をめざして、<sup>a</sup>様々な近代化事業を行った。改革の過程において、旧来の武士の様々な特権が消滅し、一部の官僚のみが主導して政治を行っていることへの不満が起こった。中には、明治政府に武力で対抗しようとするものもあった。

一方、言論の力によって対抗する者たちが、自由民権運動を起こした。自由民権運動は初め士族が中心の運動であったが、豪農など多様な身分の人々も参加し、大きな盛り上がりを見せた。<sup>b</sup>政府は様々な弾圧を行う一方で、民権派の意見も取り入れて国会開設を約束し、憲法づくりに着手した。が中心となってまとめられた憲法草案は、枢密院での審議を経て、1889年、大日本帝国憲法として発布された。

**問1** 空欄・に入る語句の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① アー五箇条の誓文 イー伊藤博文
- ② アー五箇条の誓文 イー岩倉具視
- ③ アー五榜の掲示 イー伊藤博文
- ④ アー五榜の掲示 イー岩倉具視

**問2** 下線部<sup>a</sup>に関連して、明治初期の諸改革や近代化事業について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 徴兵令では士族の男性にのみ兵役の義務が定められた。
- ② 学制が定められ、男子のみに就学の義務が定められた。
- ③ 地租改正が行われ、地租は収穫の3%と定められた。
- ④ 前島密の建議によって、郵便制度が発足した。

問3 下線部⑥に関連して、自由民権運動と、それに対する政府の対応や弾圧について述べた次の文Ⅰ～Ⅲについて、古いものから年代順に正しく配列したものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 32

- Ⅰ 大久保利通は、下野していた板垣退助と木戸孝允を大阪会議の結果政府に復帰させ、政府の強化をはかった。
- Ⅱ 国会開設をひかえ、民権派は大同団結運動に取り組み、政府の失政を批判する三大事件建白運動を起こした。
- Ⅲ 高揚する民権運動に対し、政府は集会条例を定め、弾圧を行った。

- ① Ⅰ－Ⅱ－Ⅲ      ② Ⅰ－Ⅲ－Ⅱ      ③ Ⅱ－Ⅰ－Ⅲ
- ④ Ⅱ－Ⅲ－Ⅰ      ⑤ Ⅲ－Ⅰ－Ⅱ      ⑥ Ⅲ－Ⅱ－Ⅰ

**B** 大日本帝国憲法のもとで国会が開設された。初期の議会においては政府と民党が予算案をめぐって常に対立し、しばしば政界に混乱をもたらした。㉓藩閥政治家の中には政党の勢力を認め、これと協調して政府の安定をはかる動きがとられると同時に、一方で政党を弱めるための動きもみられた。国民の間にも、対外戦争の勝利や資本主義の発達の中で政治への参加を求める動きが生まれた。

大正時代には、国民によって選ばれた議員による政党が国政の中心になり、大日本帝国憲法の枠組みの中で民主的な政権運営を求める民本主義など、多くの主張が発表されるようになった。この風潮は大正デモクラシーとよばれる。

大正時代の末には、衆議院の多数を占める政党が政権を担当する㉔「憲政の常道」とよばれる政治慣行が生まれた。しかし、政党政治は国民生活の向上には必ずしも直結せず、次第に国民の期待や信頼は薄らいでいった。

**問4** 下線部㉓に関連して、日清戦争から日露戦争にかけての時期の政党と政治について述べた次の文Ⅰ・Ⅱについて、その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 33

- Ⅰ 憲政党が結成され、大隈重信を首相とし、板垣退助が入閣する隈板内閣が組織された。  
Ⅱ 第2次山県有朋内閣は、政党が軍部に影響を与えることを防ぐため、軍部大臣現役武官制を定めた。

- ① Ⅰ－正 Ⅱ－正      ② Ⅰ－正 Ⅱ－誤  
③ Ⅰ－誤 Ⅱ－正      ④ Ⅰ－誤 Ⅱ－誤

**問5** 下線部㉔に関連して、「憲政の常道」の時期の内閣と出来事について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 34

- ① 田中義一内閣は金融恐慌を収束させるため、モラトリアムを発した。  
② 犬養毅首相が、陸軍のクーデタである二・二六事件で殺害された。  
③ 浜口雄幸内閣の大蔵大臣高橋是清が中心となって、金輸出解禁が行われた。  
④ 加藤高明内閣は、男性の選挙権の資格を直接国税3円以上の納税者に引き下げた。

C 政党政治は長期化した不況の対策などに対応できず、かわって対外的膨張を唱える軍部が、次第に政界での発言力を持ち始めた。マスコミは戦争熱をあおり、国民の間にも戦争を受容する素地がつくられていった。こうした中、中国で起こった軍事衝突が日中戦争に発展し、㉔政府は総力戦に対応する体制を整えた。国民の様々な運動も総力戦の遂行のための必要な一部と位置付けられ、物資や労働力の供出が求められた。中国との戦争は長期化し、解決の糸口が見えないまま、日本は対英米との戦争に突入していった。

国内外に甚大な被害をもたらした太平洋戦争が終結すると、GHQの指導のもとで軍国主義は改められた。戦争放棄や基本的人権の尊重などを盛り込んだ㉕新たな憲法が制定され、民主主義のもと、様々な改革が進められた。

問6 下線部㉔に関連して、日本における総力戦体制や戦時統制に関わりのないものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 35

- ① 価格等統制令
- ② 国民徴用令
- ③ 過度経済力集中排除法
- ④ 国民精神総動員運動

問7 下線部㉕に関連して、占領期の様々な改革について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 36

- ① 教育の民主化のため、道徳教育を規定した教育に関する勅語が定められた。
- ② ポツダム宣言受諾と同時に、天皇の人間宣言が国民に伝えられた。
- ③ 労働組合法が定められ、企業別に産業報国会の結成が奨励された。
- ④ 女性参政権が認められ、満20歳以上の男女に等しく選挙権が与えられた。

(日本史の問題は終わり)